

議 事 概 要 書

令和 5 年度 第 3 回玉野市地域公共交通会議

開 催 日 時	令和 5 年 9 月 26 日（火曜日）14 時から 15 時 30 分まで
開 催 場 所	産業振興ビル 3階 展示会議室
出 席 委 員	玉野市地域公共交通会議委員 18 名（欠席委員 4 名） 玉野市地域公共交通会議専門員 6 名 事務局 3 名
傍 聴 の 可 否 （非公開の理由）	可
傍 聴 人 数	9 名
議 事 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）玉野市地域公共交通計画の一部改正について（協議） <input type="checkbox"/> 承認 （2）シーバスの運賃見直しについて（協議） <input type="checkbox"/> 承認 （3）その他 ・パーソントリップについて 4 閉会 詳細は、別紙会議録のとおり
特 記 事 項	無
事 務 局	玉野市公共施設交通政策課 電話 0863-32-5547

令和5年度 第3回玉野市地域公共交通会議 会議録

1 開会

2 会長あいさつ

柴田会長あいさつ

3 議事

(1) 玉野市地域公共交通計画の一部改正について (協議)

【資料1、資料1-1】

事務局より、資料1及び資料1-1について説明

質疑なし

協議結果：承認

(2) シーバスの運賃見直しについて (協議)

【資料2、両備HD資料】

事務局より、資料2について説明

両備ホールディングス(株)より、両備HD資料について説明

質疑応答

【委員(地区)】

- ・200円エリア内から岡山市へ乗った場合、どのような運賃の計算方法になるのか。歳をとった人は、すぐに運賃計算ができないと思うがどうか。

【両備ホールディングス(株)回答】

- ・岡山に出るときは、これまでどおりの運賃となり、今と変わらない運賃となる。200円エリアとは関係なく出ていくということになる。

【委員(地区)】

- ・了解した。

【委員(地区)】

- ・確認だが、シーバスが200円になることは、議決済なのか。

【事務局】

- ・議決済みではなく、今回の議論を踏まえてお諮りするものである。

【委員(地区)】

- ・年金が少ない中、値上げは慎重にしてもらいたい。

【事務局】

- ・これまで安い金額で運行していたが、経費が増加する中においても地域公共交通を維持していくために、運賃の値上げを検討しているところであり、その観点にご理解を頂戴したいと考えている。

【委員（地区）】

- ・両備バスから提案のあった内容について、とても歓迎している。シーバスは値上げだが、分かりやすく、市内の移動が総じて安価になる。是非利用していきたい。

協議結果：賛成多数により承認

- ・賛否は挙手制で実施（賛成ならば挙手）、委員1名が不挙手

(3) その他

パーソントリップについて

岡山県県民生活部県民生活交通課が、岡山県パーソントリップ調査報告書について説明

【委員（地区）】

- ・パーソントリップ調査とは、生活交通調査という理解でよいか。

【岡山県県民生活部県民生活交通課】

- ・お見込みのとおり。

【委員（タクシー）】

- ・この9月末をもって玉野市内で長年タクシー業をしている富士タクシーが廃業する。廃業の背景には、運転手不足がある。タクシー業界では、運転手が慢性的に不足し、高齢化もしており、運転手の平均年齢は65歳以上がほとんどとなっている。バス事業者においても同様に運転手不足と聞いている。津山市では、2種免許取得の補助金を実施しているが、玉野市でも何か取り組みを実施しないと、公共交通自体の担い手がいなくなる。鉄道も含め、全国各地でそういう状況となっているので、タクシー業界では、60歳以上の定年退職された方でも、来たら雇うくらい切羽詰まった状況となっている。

【事務局】

- ・市内公共交通を支えているバスやタクシー事業者において、非常に運転手が不足しているということは伺っており、重要な課題だと認識している。今後、事業者の皆様と協議しながら、どのような方法で運転手を確保して、ど

う市内の公共交通を維持していくかということと一緒に考えていきたい。

【会長】

- ・本会の総括をお願いします。

【副会長】

(総括)

- ・すごく重要な議論ができた。

議事（１）については、国の制度の変更ということで、計画を改定する必要があり、了承いただいたところ。

議事（２）については、経費の増加や運転手不足といった地域公共交通が直面する課題がある中、交通網の維持に向けて、運賃値上げを行ったもの。現実には、玉野市に限らず交通事業者は大変厳しい状況にある。今回の議論の中では、運賃値上げを慎重にという意見もあったが、交通事業者も各路線を維持しなければならない。

今回、シーバス運賃値上げとなったが、それでも収支率は20%ほど。これは、逆に言えば200円の個人の移動に対し、市が税金から800円だしているという意味であり、いずれにしても公共交通は無料ではないということ。

また、年金でやりくりされている方がおられることについては、どこの地域でも必ず出る意見であり、そのことについて理解しているところであるが、公共交通は今、運賃値上げを行わないと、そもそもの移動手段がなくなっていく状況にある。

また、他の地域では、運賃値上げを行い、利用者もいるけれども、乗務員不足によって、減便・廃止を行ったということがあるほど、運行事業者の方もいつどうなるかわからない切実な状況となっているケースもあり、運賃値上げは、公共交通として移動の持続可能性を考えていくうえの議論の、まず一部分であるところ。

その中で、両備バスから一層の利便性の向上のため、色々ご提案いただいたものであり、引き続きしっかりと地域公共交通の維持に向けて、取り組んでいく必要がある。

議事（３）については、全国的にも岡山県がすごい調査をしている。通常は都市部などもっと狭い範囲で調査を行うが、全県で調査を行っている。

結果をもう少し詳しく分析しながら、次の展開に繋げていただけたらと思う。

4 閉会